

もっと、祈りを。

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2326号
(2010年3月12日発行)より

「祈る」とは、(神さまの)意を「宣る」ことが、語源なのだそうです。

神さまが本当にいるかどうかは別に
して、いずれにしても、「祈る」というこ
とが、単なる、私利私欲をかなえるた
めのものではない、ということはたし
かでしょう。

そして、かめわぎ流にいえば、「神さ
ま」とは、「本質」…すべての源とら
えることができます。その、すべての
源につながるもの、つなげるものが、
「祈り」なのだと思うのです。

なすすべもなくなったとき、ひとは、
どうして、自然に手をあわせるのでし
ょう。手と手をあわせることは、分か

たふたつのものをひとつにすること。
すべてひとつの状態にもどすこと。
(あ、これももちろん、かめわぎ流解
釈ですよ)

祈るとき、こころは、自然と静かにな
ります。本当に、自然に、自分の深い
ところとつながって、その深いところ
から、すべてのものにつながっていく
ことが感じられます。

そのとき、すべてのエネルギーがひ
とつになり、とてつもなくおおきな流
れが生み出されます。奇跡が起きる
ときというのは、そういう状態のこ
とをいうのかもしれませんが。

そんなことを考えていたら、ふっと、
「もっと、祈りを」ということばが、口
端に浮かびました。

「もっと、祈りを」そのことばを、あら
ためてかみしめてみて、「ああ、そのと
おりだ」と思いました。

手と手をあわせて、世界をひとつに
すること。こころを静かにおだやかに
すること。すべてとつながっている自
分を感じる。自分とつながっている
世界を感じる。

そんなこころの状態のときには、あら
そいや、いさかいの気持ちは生まれ
ないでしょう。

いま、目の前で、出会っているひとも、
まだ一度も、出会っていないひとも、
すべて、ひとしく、いとおいしい存在で
あることが、感じられるでしょう。

ひとだけではなく、すべてのこと・も
のが、輝きに満ちていることが、わか
るでしょう。世界が、光で満たされて
いることが、わかるでしょう。

「もっと、祈りを」
自分には、何もできないと感じるひと
であるならば、なおさら。

「もっと、祈りを」
ただそれだけが、それだけゆえに、

おおきなちからをもつのですから。

私も、また祈ります。
過去から未来へとつながる無数のひ
とびとの祈りの列に加わります。

何を祈るのかわからなくてもいいの
です。そんなときには、ただ、光あれ、
と祈ります。すべてがひとつであるこ
とを感じつつけながら。

「もっと、祈りを」
今日は、ただそのことを祈ります。
すべてのこと・もの・ひとのために。
すべてのこと・もの・ひととつながる、
自分自身のために。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカス
チェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、
2003年11月1日創刊。2009年4月、
2000号達成。3秒で読める携帯版もあり。
無料講読は「かめわぎ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>